

幼児教育史学会

第12回大会プログラム



三色彩道

Moment of Photograph fotomoment.exblog.jp より

2016年12月10日（土）

千里金蘭大学 3号館9階 大会議室

【第12回大会開催のご案内】

幼児教育史学会 第12回大会実行委員会

会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
幼児教育史学会第12回大会を12月10日(土)、千里金蘭大学で開催します
皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

<開催要領>

○期日 2016年12月10日(土)

○場所 千里金蘭大学(〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5-25-1) 3号館9階大会議室

○タイムスケジュール

9:20 **9:50** 13:00 **14:00** 16:30 **16:45** 17:30 **18:00** 20:00

受付	研究発表	昼食	シンポジウム	休憩	総会	移動	懇親会
----	------	----	--------	----	----	----	-----

研究発表の開始時間は**9時50分**からです。

○大会参加費・懇親会費(前納方式は採りません)

	会員	非会員	大学院生
大会参加費	1,000円	1,000円	無料
懇親会費	5,000円	5,000円	3,000円

○受付

会場(3号館9階大会議室)前で行います。

受付で参加費をお支払いください。『発表要旨集』等をお渡しします。名札はご自身のものを探してお持ちください。ご所属等が変わられた際は、新しいカードを用意しておりますのでご利用ください。非会員の方は、記名用紙にご所属とお名前等のご記入をお願い致します。

○研究発表

- ①研究発表時間は、一人あたり**25分**(研究発表20分、質疑5分)です。
- ②発表内容は未発表の内容に限ります。
- ③発表者が遅刻の場合は、発表資格を失います。ご注意ください。
- ④発表に関わるレジュメ、資料などを会場で配布される場合、**60部以上**をご用意ください。

○昼食

12月10日(土)、大学構内の食堂を利用することはできません。

恐れ入りますが、事前にご準備のうえご参加ください。

キャンパス周辺には、コンビニエンス・ストアなどありません。
 最寄りの北千里駅近辺にはスーパー・コンビニ、飲食店があります（駅まで徒歩10分～12分）。
 また、千里中央駅にコンビニ、パン屋、新大阪駅にお弁当売り場、スーパーなどがあります。

お食事の際は、大会会場（大会議室＝3号館9階）をご活用いただきますようお願い致します。

○懇親会

12月10日（土）の総会終了後、18時より懇親会を開催致します。1ページの「大会参加費・懇親会費」をご参照ください。会場：カフェ・リラクスキューブ（北千里駅より徒歩2分 医療ビル2階）
参加人数把握のため、事前申込にご協力をお願いいたします。

○関連企画

大会翌日、12月11日（日）9：30～12:00、海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会（愉フォロ会）を行います。（3号館7階712教室）8ページ参照。

千里金蘭大学 キャンパス・マップ



3号館9階：大会会場（研究発表、シンポジウム）

3号館7階（3712）：大会 打ち合わせ・懇談、愉フォロ会、理事会・会場

7階		階段	EV			
機 械 室	3715 講義室	手洗 (女性)	職員手洗 EV 3台	準 備 室	3716 講義室	機 械 室
階 段	3714 講義室	3715 講義室		<u>3712</u> 講義室	371 1 講義室	階 段

プログラム

【受付】 9:20～ 3号館9階 大会議室前

【自由研究発表】 9:50～13:00 (大会議室)

司会 : 勝山吉章 (福岡大学)

高田文子 (白梅大学)

1. 9:50～10:15 藤野敬子の目指した子ども主体の保育とは

発表者 : 永倉みゆき (静岡県立大学短期大学部)

2. 10:15～10:40 幼稚園教育実践内容の「会集」に関する研究

— 山口県における仏教系幼稚園鞠生(華浦)幼稚園の保育史料を中心に —

発表者 : 三吉愛子 (鈴峯女子短期大学・非/広島大学大学院)

3. 10:40～11:05 廣瀬興の育児思想

— 総力戦体制下を中心に —

発表者 : 浅野俊和 (中部学院大学)

** 11:05～11:15 休憩 * * * * *

4. 11:15～11:40 戦後日本における里親の組織化と科学化

— 秋田県里親会連合会の設立期に着目して —

発表者 : 田中友佳子 (九州大学)

5. 11:40～12:05 占領期における幼児教育の民主化・科学化・社会化をめぐって

— 国国立公文書館でのGHQ関係資料調査をもとに —

発表者 : 首藤美香子 (白梅学園大学)

6. 12:05～12:30 「伝えあいの心理学」の成立と東京保育問題研究会

— 1960年代後半の表現三部会合同研究を中心に —

発表者 : 浅井幸子 (東京大学)

12:30～13:00 全体討論

【昼食】 13:00～14:00

【シンポジウム】 14：00～16：30 （大会議室）

テーマ： ～～江戸の子育てから明治のキンダーガーデンへ～～

講演及び対談：

太田素子（和光大学）

「＜家と村の子育て＞からの離陸

——保育・幼児教育はどのように国民のものになるか」

是澤博昭（大妻女子大学）

「節句に見る子供—近代からみる江戸の子育て」

司会：オムリ慶子（関西学院大学） 福元真由美（東京学芸大学）

趣旨説明：

江戸の子育ての特徴と江戸から明治の幼稚園に至る過程の子育ての態様や価値の変化に注目し、260年以上平和が続いた江戸時代に育まれた思想、しかし、我々が西欧から学ぶ際に縮小させた思想を再度見直すとともに、新しい文化・価値が流入した明治期の教育要求の意味を考える。

江戸時代は265年に渡り、他国との戦争をせず平和を保ってきた。

その中で、独自の文化を反映させてきた。歌舞伎、茶道、浮世絵、襖絵、染色、醸造、絹織物、綿織物、紬、多様な紋様、陶芸、和紙、漆etc.この時代は、戦争がなかっただけ、文化芸術やものづくりが円熟した面がある。寺子屋の普及により、西欧諸国よりも識字率が高かったという特筆すべき点もある。

その中で、次のような特徴もある。

- ① 独り勝ちしない「三方よしの思想」（「買い手よし、売り手よし、世間よし。」という近江商人からまった思想）
- ② すべての生命を平等と考える思想（女も男も、動物も虫も人間も平等）＝輪廻転生や一切衆生悉有仏性
- ③ 循環型社会（環境を汚さず循環させ、次世代に良い環境を手渡そうとした。）
- ④ 近隣国をもてなす友好外交（朝鮮通信使12回の来航）

もちろん捨て子や子返し、飢饉の際の人身売買など負の面もある。しかし、現代のグローバリゼーションによる格差拡大、環境破壊などの現状を顧み、持続可能な世界を目指すならば、独り勝ちしない思想、生命の平等、循環型社会、もてなしの文化といった点などから我々が学ぶべきことは多い。そして、この中でどのような子育てが展開されたのかを着目したい。

国民主権や民主主義などの近代的な価値は護りつつ、後ろを振り返って江戸から学び、近代の問題を捉えなおしながら新たな方向を探る。（実行委員）

【総会】 16：45～17：30 （大会議室）

【懇親会】 18：00～20：00 カフェ・リラクスキューブ（北千里駅より徒歩2分）

自由研究発表 要旨

藤野敬子の目指した子ども主体の保育とは

——昭和25年の教育課程作成とその背景——

永倉みゆき（静岡県立大学短期大学部）

藤野敬子は静岡大学附属幼稚園に30年に亘り勤め、副園長であった平成元年には、幼稚園教育要領改訂の際のワーキンググループの一員として「子どもを主体とした保育」を実践の中で現し続けた人物である。藤野は静大附属幼稚園に於ける実践研究の中で、次々と当時の保育界にとって新しい試みを生み出していった。本稿では、附属幼稚園に勤め始めた頃に作成した「昭和25年 教育課程」について、作成の背景を探るとともに、これがその後の藤野の保育観に与えた影響について考察する。

藤野らの作成したものは評判を呼んだようであり当時、静大附属幼稚園の園長であった静大教授の鈴木信政は、藤野等の作成した教育課程を題材に雑誌『幼児の教育』に「カリキュラムはこうしてつくられる」というタイトルで寄稿している。当時藤野は25歳で経験も浅い保育者であり、藤野の他2名の保育者が「参考書と首っ引き」で作成したと語っている。

注目すべきは、昭和23年に「保育要領」が出されたばかりで、保育内容が12項目であった時代であったにもかかわらず、作成された教育課程の後半に、昭和31年刊行の『幼稚園教育要領』6領域を思わせる記述が見られる事である。これはどのようないきさつから生まれてきたのだろうか。また、3名の若い保育者は、どのような資料を参考に作成したのであろうか。これらについて、当時の保育界の背景については保育雑誌等の資料を元に検討を進め、関係者からの聞き取りを加えて明らかにしていきたい。

幼稚園教育実践内容の「会集」に関する研究

——山口県における仏教系幼稚園鞠生（華浦）幼稚園の保育史料を中心に——

三吉愛子（鈴峯女子短期大学・非／広島大学大学院）

本研究は、山口県における明治期開設の仏教系私立幼稚園鞠生（華浦）幼稚園に残されていた保育日誌や保育記録に基づいて、保育項目の「会集」の位置付けおよびその内容と歴史的変容に迫ろうとするものである。

わが国の学校教育における朝会（朝礼・集会）は、他の先進国では類を見ない日本の歴史的経緯がある。それは、宗教教団の勤行や軍組織の点呼などに起源をもつと考えられ、小学校・中学校の学校行事として定着しており、幼稚園との類似性をもっているといえる。明治期の幼稚園においては、東京女子師範学校附属幼稚園を始め、保育項目の「会集」として、ほぼ毎朝行われていた保育実践の内容の一つである。特に、その時間は幼稚園生活に於ける一日の活動の始まりとして、重要な役割を担う時間とされていた。

なお、その会集は次第に変容し、幼児を長時間緊張させ疲労を与えるとして、進歩的な幼稚園からの非難も生じ、幼稚園令を制定するための大正14年の調査結果によると、「会集」を行っている幼稚園はわずかに1.6%に過ぎなかった。しかしながら、「会集」は、現在の日本の幼稚園・保育園で行われている全体集会や朝の会（お集まり・朝会・朝礼・集会）という、現代に通ずる活動として、今も

なお引き継がれている。

このようなわが国の幼稚園教育史の変容を基底におきながら、現在の幼稚園・保育園において毎朝行われている朝の会の起源を探るために、明治期開設仏教系幼稚園の「会集」の特色を明らかにする。本研究では、「会集」の具体的内容に特化した言及をすることに意義があると考え、山口県における明治期開設の仏教系幼稚園鞠生(華浦)幼稚園において残されている保育日誌の史料を経時的に分析することで、その変容を明らかにし、仏教系幼稚園としての特色ある「会集」の具体的内容とその実態を解明した。

廣瀬興の育児思想

——総力戦体制下を中心に——

浅野 俊和 (中部学院大学)

1930年代半ばから1940年代半ばに至る時期、いわゆる総力戦体制下は、国家主導のもとで子育ての社会化や大衆化が図られた時代である。そうした活動は多様な組織・団体や個人によって推進され、幅広い分野での成果も見せた。しかし、それらの担い手の中でも、とりわけ積極的な取り組みを行った組織・団体の1つとして、「恩賜財団愛育会」の存在を無視することはできない。

愛育会は、1933(昭和8)年12月23日の皇太子誕生(現・天皇)を受け、昭和天皇から伝達された御沙汰書(御下賜金)をもとに、翌1934(昭和9)年3月13日に創立された。その活動は、同会に関わりを持つ保育研究者や心理学者、医師、社会事業関係者など、多様な職種の手で推進されている。とはいえ、そのような関係者の中でも特に活躍を期待され、実際に大きな足跡を残したのは、小児科・産科専門の医師たちであった。

戦時下の愛育会と直接的な結びつきを持った医師には、斎藤潔や三田谷啓、西野陸夫、廣瀬興、齋藤文雄、内藤壽七郎、森山豊ら、戦前から戦後にかけて斯界を背負ったとされる人物の名前が連なる。本発表においては、そうした医師の中でも、草創期に愛育調査会委員を務め、その後は愛育隣保館館長にも就任した廣瀬興を取りあげて、彼の育児思想を検討する。

なお、本発表は、「平成26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(基盤研究(C)))」(タイトル:「総力戦体制下の保育雑誌に見る『国民保育』論の生成と展開——『国民保育』誌を中心に」、課題番号:26381105)及び「平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金(挑戦的萌芽研究))」(タイトル:「総力戦体制下の育児雑誌に見る『母子保健』思想——『愛育』誌と『愛育新聞』誌を中心に」、課題番号:16K15893、研究代表者:真鍋智江)による研究成果の一部である。

戦後日本における里親の組織化と科学化

——秋田県里親会連合会の設立期に着目して——

田中 友佳子 (九州大学)

日本において里親が制度化されたのは1947年「児童福祉法」制定以降のことである。GHQ占領下において、戦災孤児、浮浪児、捨児問題への第一の処方箋として掲げられたのが、里親制度であった。しかし「貰い子」「梶子」といった慣習は戦後も存在しており、働き手や養子を得ようとする里親側のニー

ズ、人身売買の隠れ蓑としての里親に対する批判、そして里親第一主義の理想とのはざままで里親制度が揺らいでいたことは、土屋敦（『はじき出された子どもたち—社会的養護児童と「家庭」概念の歴史社会学』勁草書房、2014年）や貴田美鈴（「児童福祉法成立期の里親委託の位置づけ」『研究紀要』岡崎女子大学・岡崎女子短期大学、44、2011年3月、7~16頁）の研究で明らかにされている。これまで戦後里親に関する研究においてはGHQや厚生省、労働省、法務庁そして国会で交わされた議論に焦点が当てられてきた。一方で、里親登録や里子委託が里親や児童相談所によってどのように行われ、いかに里子を養育したのかについては、目が向けられていない。本発表ではこうした里親制度の運用の側面に着目する。

1950年代各地に里親の交流の場が作られはじめ、1954年には全国里親連合会が結成された。この頃、新たに未受託里親数の増加という問題が浮上する。また養護施設のホスピタリズム問題が取り上げられる一方で、里子の性質や養育のあり方にも関心が集まっていった。里親をめぐる問題が徐々に変化し、「養育技術の向上」「里親の質的開拓」へと意識が向けられる様子を本発表では明らかにする。本発表で対象とする秋田県は日本一の人身売買の供給地であった。同時に、東北地方においては岩手県に次いで委託里親率が高く、里親村と呼ばれる場所も存在していた。里子の供給地でもあり需要地でもあった秋田県に着目することにより、慣習的な里親が里親制度の中に組み込まれ、さらに里親養育の質向上が図られる端緒を見ることができる。史料として、秋田県内の児童相談所や里親会の刊行物、地方紙『秋田魁新報』を主に用いる。

占領期における幼児教育の民主化・科学化・社会化をめぐって

——米国国立公文書館でのGHQ関係資料調査をもとに——

首藤美香子（白梅学園大学）

占領期における幼児教育改革の理念や動向については、『保育要領』から『幼稚園教育要領』、「幼稚園基準」の作成過程とそれに対するGHQの関与度や影響力、日本側委員による議論の推移など検証がなされてきている。が、その根拠となる資料は、一部の当事者の発言や機関の記録に限られている。そこで、占領関係文書を所蔵する米国国立公文書館で調査を行い、必ずしも項目ごと時系列的に分類されておらず、いくつかの部局に分散していた原資料を可能な範囲で収集整理し、幼児教育の民主化・科学化・社会化に向けた占領期の取り組みの一端を解明した。カリフォルニアプランを軸にCIEで進歩主義教育の推進による「民主主義の輸出」を企図したH.ヘファナンの功績については既に一定の評価がなされているが、『保育要領』の根底にある民主主義に基づいた就学前教育構想には、ホワイトハウス会議やゲゼルの発達論の影響も否めないのではないかと考えられた。また、1948年3月の「保育要領」刊行直後より、文部省内では幼稚園教育の問題点や改善策について検討がなされていることがわかり、例えばGHQの仲介で、児童教育協会(Association of Childhood Education 1892年設立 本部ワシントンDC 1947年にACEIに名称変更)から示唆を得ようと倉橋が代表して書簡を送り、同年7月の第二回全国保育連合会ではACEからの返信と冊子『活動の計画(Plan for Action)』を紹介している。興味深いことに邦訳は、制度整備や教育不足解消、児童の心身の健康改良の項目など喫緊の問題解決のための方策に限られ、民主社会実現に関するACEの提言は削除されている。一方、「幼稚園基準」作成の委員長三木安正は1951年9月の委員会初回で個人的な提案を行っているが、その内容は日本の旧習を脱するための幼児教育改革案として非常に具体性に富み、その後の『教育要領』への発展性もうかがえる。以上、改革期の試行錯誤の過程に目を向けると、戦前と戦後の連続性や断続性をより鮮明にできるのではないかとと思われる。

「伝えあいの心理学」の成立と東京保育問題研究会

——1960年代後半の表現三部会合同研究を中心に——

浅井幸子（東京大学）

乾孝（1911-1994）の「伝えあいの心理学」は、東京保育問題研究会の「伝えあい保育」との相互的な関係において形作られるとともに、その実践を理論的に支えた。本報告では、1960年代後半から1970年代の東京保育問題研究会の表現三部会合同研究会に着目し、「伝えあい」の対話的な発達理論に支えられつつ表現の教育が展開する過程を検討する。

乾の「伝えあいの心理学」は、発達と学習を、歴史的文化的かつ対話的な過程として捉えた点に特徴がある。その理論は、法政大学心理学研究会（1946-）、民主主義科学者協会心理学部会（1948-）、民主保育連盟（1946-1952）、（東京）保育問題研究会（1953-）、思想の科学（1946-）等における理論との対話や実践との対話を通して形作られた。具体的には、アメリカのコミュニケーション理論、すなわち「伝え」の理論を基盤とし、パヴロフの第二信号系の理論をヴィゴツキー的に解釈して導入することによって、相互的な認識の変革を含む「伝えあい」の理論として再編している。乾は1961年に、この対話的な発達の理論を「伝えあい」の理論として提示するとともに、（東京）保問研の「話しあい保育」を「伝えあい保育」に名称変更する提案を行った。

本報告は、「伝えあい」の理論化以降における芸術系の部会に焦点をあてる。東京保問研の文学部会、絵画部会、音楽部会は、それぞれ1950年代半ばから研究を蓄積していたが、1965年に乾の提案によって「表現三部会」として共同研究を行うこととなった。そこでは別個に考えられてきた表現が、「伝えあい」の理論を軸として探究されている。当日の報告では、その過程を具体的な実践に即して検討する。

関連企画

○海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会 (愉フォロ会)

日時：12月11日（日）9：30～12：00（大会翌日）

会場：千里金蘭大学 3号館7階712教室

報告者：① 神戸松蔭女子学院大学 吉田直哉

「乾孝の「伝えあい保育」論に対する政治理論の影響
—湯川和夫の民主主義論との対話に着目して—」

② 大阪国際大学短期大学部 久保田健一郎

「玩具と子どもの人間形成論」

○最寄りの駅から会場までのアクセス

千里金蘭大学までは、駐車場の用意はありませんので、公共の交通機関をご利用ください。
 アクセス・マップ (<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>) をご活用ください。

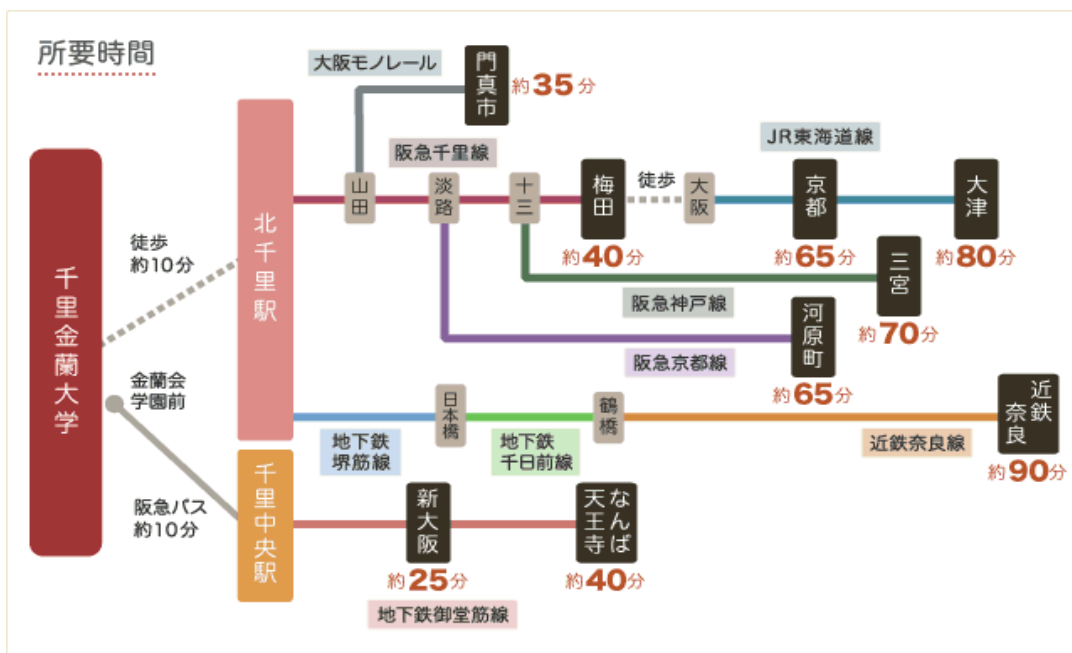
- ・阪急千里線 北千里駅から
 <徒歩>約12分。 **地図参照**
 <阪急バス>4番のりば (改札口を出て左へ、ロータリー中ほど) **時刻表参照**
 「小野原東行き」バス175または176系統乗車「金蘭会学園前」下車 約5分(220円)。
 <タクシー> 改札口を出て左へすぐ、タクシー乗り場から 約5分(680円)。
- ・地下鉄御堂筋線 千里中央駅から
 <阪急バス>12番のりば (北側改札口から2~3分程度) **地図・時刻表参照**
 「小野原東行き」バス175系統乗車、「金蘭会学園前」下車。約12分(220円)
 <タクシー> 約1,100円

○交通案内

- ・阪急梅田駅から
 阪急千里線「北千里駅」下車(12駅28分)。
- ・JR新大阪駅から
 地下鉄御堂筋線(進行方向前よりに乗車)で「千里中央駅」下車(5駅14分)。阪急バスで12分。
- ・大阪空港から
 大阪モノレールで「山田駅」下車(5駅15分)。
 阪急千里線北千里行に乗り換え「北千里駅」下車(1駅3分)。

○宿泊

千里中央駅、南千里駅、万博記念公園駅、江坂駅、新大阪駅などにあるホテルが比較的近いです。
 同日(12月10日、11日)、本学で「子どもの権利条約フォーラム2016in関西」も開催されます。
 また、大阪を訪問される外国人観光客数が著しく増加しています。★★宿泊予約が取りにくいことが予想されますので、なるべく早めに宿泊予約をされることをお勧めします。





< 駅から大学までの行き方（徒歩） >（約 10～12 分）

- ①改札口を出て右側に進み陸橋を渡り、階段を北へ降りる。
（東→北へ 1 分）
- ②駅前交差点の信号を渡り右（東）に曲がり並木道を次の信号
（三色彩道入口＝紅葉の名所）まで進む（東へ 4 分）。
- ③信号手前のふじしろ幼稚園を左へ曲がる。（北へ 1 分）
- ④幼稚園正門を過ぎ、左に少しだけ進みすぐ右に曲がる。（北へ 1 分）
- ⑤「この先行き止まり」の目印の道をそのまままっすぐ進む
（静かな住宅街）。（北へ 2 分）
- ⑥さらに車止めがある入口の細い道を進む。（北へ 1 分）
- ⑦信号を渡り歩道（左側）をそのまままっすぐ進む。大学正門に入り、
突き当りが 3 号館。（北へ 2 分）

北千里発の時刻（阪急バス）

行先 小野原東

4 番のりば・175 系統

「金蘭会学園前」下車

8 時：14、29、45

9 時：00、20※、40

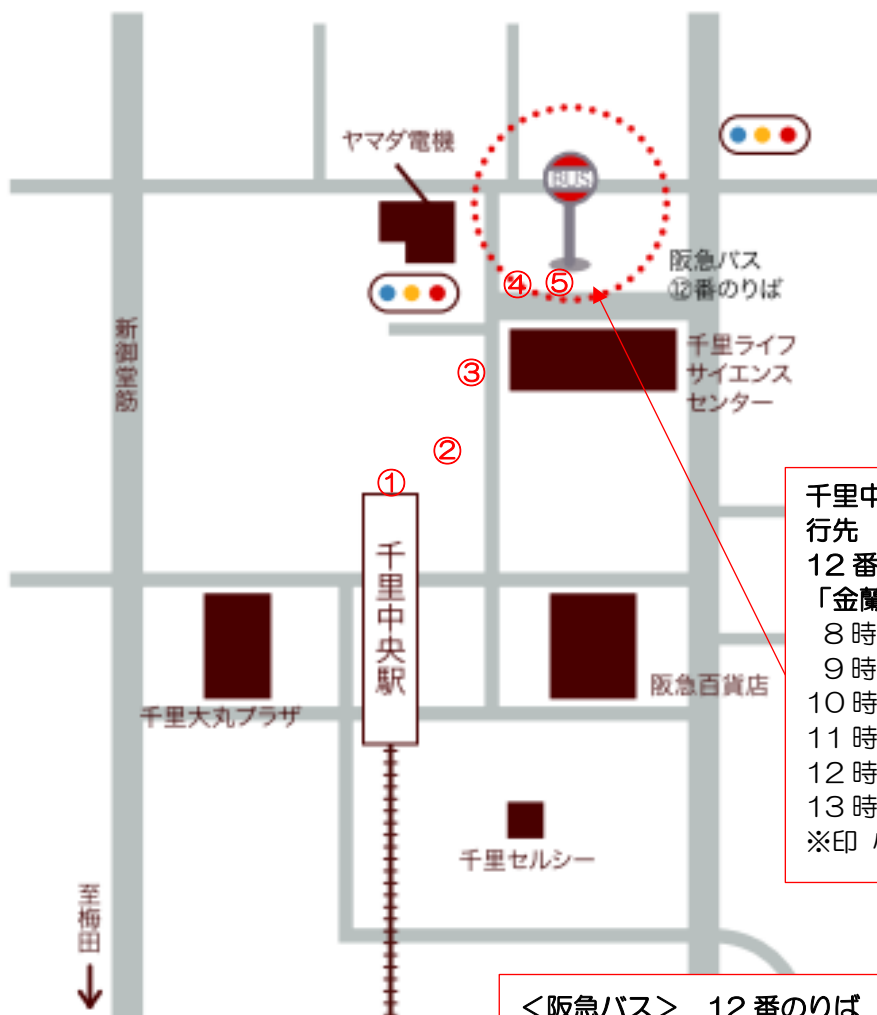
10 時：00、20、40

11 時：00、20、40※

12 時：00、20、40

13 時：00、20、40※

※印 小野原東→豊川駅行き



千里中央発の時刻（阪急バス）
 行先 小野原東
 12番のりば・175系統
 「金蘭会学園前」下車
 8時：06、21、37、52
 9時：12※、32、52
 10時：12、32、52
 11時：12、32※、52
 12時：12、32、52
 13時：12、32※、52
 ※印 小野原東→豊川駅行き

<阪急バス> 12番のりば への行き方

- ①御堂筋線北側改札口から階段を上る（1分）。
- ②1階に出たら右に少し進む。
- ③歩道に出たら左（北）に進む。（1分）
- ④信号を渡って交差点のはず向かいに進む。
- ⑤さらに右（東）へ進む（1分）。

12番のりば＝千里中央病院南側道路沿いバス停。
 ライフサイエンスセンター北側

大会に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

連絡先：幼児教育史学会第12回大会実行委員会

〒565-0873

大阪府吹田市藤白台 5-25-1

千里金蘭大学生生活科学部児童教育学科 早田由美子研究室気付

Phone : 06-6872-7797 (子ども支援協働研究室)・06-6872-7294 (研究室直通)

E-mail : y-hayata@cs.kinran.ac.jp